

和 鶴岡JC NEWS

～想い溢れるJayceeの力で、地域に和を創造しよう～

contents

社団法人鶴岡青年会議所●特集
対談「山形の財産である羽黒山の魅力について」 ①・②・③

「7月例会」予告 社団法人日本青年会議所 東北地区 山形ブロック協議会 ④
第42回山形ブロック会員大会 鶴岡大会

第十九回 赤川花火大会 2009年全国デザイン花火競技会 -花火大会の裏側を取材!!- ⑤
3・4・5月例会報告 ⑥

※1 JAYCEE…アクセントは頭に置き、ジェイシーと読む。青年会議所会員個人を表す。



2009年度 社団法人鶴岡青年会議所
理事長

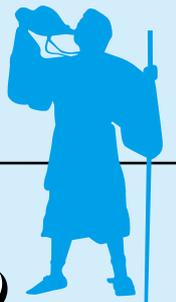
2009年度 社団法人日本青年会議所 東北地区
山形ブロック協議会 会長

出羽三山神社権宮司

佐藤智信 × 高田 誠 × 宮野直生

社団法人鶴岡青年会議所●特集

対 Special Talk Session 談



「山形の財産である 羽黒山の魅力について」

■宮野権宮司略歴

昭和22年 鶴岡市馬町鎮座 旧県社梶尾神社(大山犬祭り)の社家の家柄に生まれる。
昭和46年 國學院大學 文学部神道学科 卒業
昭和48年 出羽三山神社奉職
現在 出羽三山神社 権宮司(神職身分 浄階一級)
羽黒町観光協会会長など務める。



進行/JC交流室室長:渡辺孝之 広報委員会委員長:木村修平 副委員長:上鉢功一

ブロック会長、理事長 それぞれ羽黒山に来てみての感想

山形ブロック協議会高田会長（以下高田とさせていただきます。）

私は寒河江出身で、ここまで足を運ぶ機会は少ないのですが、小さい頃に来た記憶があります。改めて大人になって来てみますと、神聖な雰囲気の中で、心の洗濯というか自分自身を見つめ直す魅力的な場所であることを再確認しています。

歴史的な建造物、自然もそうですが、こういった場所が県内にあるということを中心に誇りに思うと共に、山形ブロック会員大会鶴岡大会の成功に向けて、ここ出羽三山神社で参拝できることに大きな喜びを感じています。

鶴岡青年会議所佐藤理事長（以下佐藤とさせていただきます。）

自分はすぐ隣の町に住んでいるため、何度も足を運んでいます。遠足やプライベートで訪れていて、いつ来ても心身共に洗われるようないい場所だと思っています。また、2003年に山伏体験修行にも参加させていただいた際に、生まれ変わると言った概念等を初めて教えていただき、その体験を通して、また新しい自分を見つけることが出来ました。その素晴らしさをより一層、県内に広めていきたいと思っています。



神社の前にて山伏と写真 高田ブロック会長、佐藤理事長

羽黒山が1400年も信仰され、 海外からも認められている魅力と、 今の地域社会について

出羽三山神社宮野権宮司（以下宮野とさせていただきます。）

出羽三山が1400有余年もの長きに亘り信仰され、今回のミシュランの三ツ星のように海外から注目されているのは、なぜかと言えば継承する人がいるから繋がっているのです。出羽三山神社だけに限らず、全国には数多くの社寺仏閣が建立されていますが、それを通して地域の伝統や文化などすべての面が網羅されているのが、お寺とか神社なのです。お寺で言えば檀家、神社で言えば氏子、を通して現在のコミュニティの場を形成していて、地域の身近なコミュニケーションをスタートさせていたのです。それこそが、現在まで引き継がれてきた大きな要因だと私は考えております。（高田会長の地元）寒河江では、寒河江八幡宮と言う大きな神社があり、神幸祭があります。お祭りだけに限らず、それが地域を代表する文化とな

っているはず。そういう地域の皆様の認識の元に継承されて、日本の姿が存在していると思っています。然しながら、いつの間にか戦後、日本社会の歪みというか、そこに失われた面がとて多くあり、物が溢れ欲する物は何でも手に入り、お金が唯一であるとする風潮のなかで、日本人本来の素晴らしい文化と言ったものを疎んじるようになってきているのではないのでしょうか。国を愛し、これが家族団欒、延いては教育などすべてに結びついているのです。郷土を愛し、先祖を敬う、言わば敬神崇祖を軽視する流れなどにも感じているところです。元禄二年、松尾芭蕉が当地を訪れて、文学的な不易流行と言う思想に到達し、また温故知新、稽古照今、と言った先人の言葉に思いを馳せていただきたいと思っています。

今、青年会議所が取り組んでいること

高田 県内には17地域の青年会議所があり、まちづくり、ひとづくりを通して「明るい豊かな社会」の実現を目指し活動を共にしていますが、県内の青年会議所より出向するメンバーで組織される山形ブロック協議会では、特に力を入れていきたい事業の一つとして「未来の地域を創る青少年との新たな世代間交流」があります。

未来を担う青少年の健全育成事業の一環ではありますが、私たちに近い世代、例えば高校生、大学生との世代間交流を深め、私たちが担ってきた役割を少しでも理解していただき、この運動をさらに若い世代に引き継ぐことによって、まちづくり、ひとづくりの運動性が拡がり、かつ若い世代の自由な発想を取り入れることにより、青年会議所の組織力、会員力の向上に結びつくと考えます。

佐藤 今年度の鶴岡青年会議所のスローガンは「和」としており、これまでの古き良き伝統、文化を、1年通して見つめ直したいと思っています。権宮司もおっしゃった拝金主義については自分もおかしいと思うし、最近の風潮の中で、もう一度「和」の心を見つめなおす、ということでこのスローガンを掲げさせていただいております。

鶴岡青年会議所としての青少年活動では、やはりわんぱく相撲です。実は明日も県内のわんぱく力士たちが鶴岡に集まり、両国国技館をめざした県大会が行われます。青少年教育につきましては、すべて学校に任せられるのではなくて、親は親の責任を持って、地域は地域の責任を持って子供たちを見守っていかなければならないと思っています。



貴賓室で行われた懇談会

神社としての青少年に向けた取り組み

宮野 地域にはそれぞれ特色があり、この地域の子供たちは種々の出羽三山の行事に幼き頃から関わってきていることから、抵抗なく、例えば八朔祭では、自然災害に負けないようにと地元小学校児童による奉納相撲が行われます。その姿を見ると、本当にエネルギーを得ているのは、我が子、我が孫を応援している保護者だと感じます。これらは、素晴らしいこの地域の伝統そのものです。子供たちが、大人になる上で地域文化として必須なものであると思います。さまざまな行事を通して、四季の自然の恵みに感謝し、学び育まれているのです。皆さんの青年会議所にも言えると思いますが、人の縁と言うものは大切だと思います。そして、その中心となるものは『和の心』であり、次に『感謝の心』です。家族に感謝、友人に感謝、自然に感謝、すべての物に感謝する心が忘れさられているのではないのでしょうか。最近の日本人の有り様に疑問を感じているところです。



羽黒山の魅力について語る宮野権宮司

今後のJCの取り組みについて

高田 この会員大会の歴史を振り返ると、一昨年は教育問題、そして昨年は環境問題について取り組み、今年是自己進化への挑戦というキーワードをもって運動を発信していきます。自分を律することによって地にしっかりと足をつけ、私たちJAYCEE（青年会議所会員）一人ひとりがつよい行動力と指導力を身につけ自己進化への挑戦をはじめることによって、本年、山形ブロック協議会が目指す“自律したつよい「やまがた」”を創り上げることができると信じています。

私は卒業まで残り2年のJC活動ではありますが、本年、第42代の会長を務めさせていただいていることは、正しく自己進化への挑戦であり、これまでの集大成として自分自身への可能性に今一度、挑戦する一年にしていきたいと思っています。

先行きの不透明な現代において、このような時代だからこそ、もう一度足元を見つめ直し、「時代は変わる。いや変える」と誓い、諦めずに信念をもった運動を推進していくことが、明るい豊かな未来を切り拓いていくことを確信しています。

佐藤 先ほど、権宮司もおっしゃいましたが、八百万の神も当然なのですが、父であったり、母であったり、家族であったり、地域であったり、関係を持つすべての人に感謝する。自然であったり、食であったり、そういった恵みにも感謝するといったことが、非常に大事なのではないのでしょうか。そういった意味から、今回の会員大会というものを通じて、県内の青年会議所が一斉に集うわけですから、そこに何かを発信できればと思っております。

ます。そこで発信したのに関して、責任を持って次の世代に伝承していきけるような活動にしていきたいと考えています。

宮野 皆さんは、地域産業振興の中核を成している訳ですから、地域の未来を担う上で指導的役割を発揮してほしいものです。今、話のあった教育に始まって心の浄化、そして再発見、これは大自然の雄大さがあるから出来る訳です。都会では出来ないそう言った地域なのです。これからも頑張っていくください。

以上、今回の広報誌特集「山形の財産である羽黒山の魅力について」でした。宮野権宮司、高田ブロック協議会会長、佐藤鶴岡青年会議所理事長、貴重なお話をありがとうございました。懇談会の中でも少し話が出てきましたが、羽黒山神社は毎年観光客や山伏体験の希望者など、多くの方が訪れております。今年は特に出羽三山丑歳御縁年にあたるそうです。三山の一つであり、奥の院である湯殿山が、丑歳に御開山されたことから湯殿山の御縁年をもって三山の御縁年とされているのだそうですが、十二年に一度の丑歳に参詣すれば、十二回お参りしたのと同じとされ、大変なご利益があると伝えられているとのこと。ミシュランの三ツ星を獲得した大自然も、あらためて見ると今までとは違って映るかも知れません。一度訪れたことがある方も、是非この機会にご来山なされてはいかがでしょうか？

また、この日は山形ブロック会員大会に向け決起集会を兼ねて、羽黒山神社にて成功祈願のご祈禱を行ってまいりました。山形ブロック会員大会につきまして、詳しい日時、内容は当広報誌4ページ目記載しております。ホームページにも随時情報が更新されますので、<http://www.tsuruoka-jc.info/>にもアクセスしてみてください。山形ブロック会員大会が成功に収められますよう、鶴岡青年会議所一同がんばってまいりますのでよろしくお願い致します。



鶴岡を代表するもうひとつの神社、荘内神社を中心としたお祭りである天神祭りに、鶴岡青年会議所、第十九回赤川花火大会実行委員会と合同で参加してまいりました。

主に今年8/9(日)に開催されます第十九回赤川花火大会（詳しくは当広報誌5ページ目、またはホームページ <http://www.akagawahanabi.com/> 参照）のPRを行ってまいりました。化け物に扮しパレードに入って、沿道の人たちにお酒やジュースを振舞いながらチラシを配ったり、呼びかけを行いながら、参加者も楽しみながらのお祭りでした。そのときの模様を撮影してきましたのでご覧ください。わかりにくいかも知れませんが、化け物とばか者をかけた趣向なんだそうです。



天神祭のパレードに参加

7月例会 Information

社団法人日本青年会議所 東北地区 山形ブロック協議会
第42回山形ブロック会員大会

鶴岡大会



JC交流室担当 副理事長
山形ブロック会員大会 実行委員会 実行委員長
工藤 規行
Kudo Noriyuki

江戸の時代、ここ鶴岡に荘内藩があったころ、藩校である致道館の設置に際し、その趣意書(被仰出書 おおせいだされしよ)の中に、「天性」という言葉を使用しております。

「天性」とは生まれ持った才能のことであり、得手・不得手を見極めて生徒の性質にあった指導をすることを述べています。そのような学問を受けた藩士の子弟が現在の鶴岡の礎となったわけです。

この度、第42回山形ブロック会員大会が鶴岡で15年ぶりに開催されます。この会員大会のスローガンは、致道館の趣意書より一語をいただき、「天性開花～自己進化への挑戦～」と致しました。

「天性開花」は造語ではありますが、生まれ持った才能が埋もれていることはないか、この混沌とした世の中で、厳しい中でも何かに挑戦して花を咲かせてほしいとの願いを含んでおりますが、併せて山形ブロック協議会高田誠会長のスローガンにもあります、「無限なる可能性への挑戦」という一文にも重ねております。

その中で会員大会実行委員会では、「自分たちでできることは自分たちでやる」ということを目指しております。

よく「おもてなしの心」とはいいますが、私の考える「おもてなし」とは、下手でも上手でも自分たちの作ったもので他LOMのメンバーをお迎えすることと捉えており、これが鶴岡が主管する「新たな可能性への挑戦」と考えております。

また、山形ブロック協議会会員大会運営委員会が担当しますメインフォーラムでは、日本ラグビー界から元日本代表・監督の平尾誠二氏をお迎えし、「つよい」指導力と行動力を持ち、自分の限界に挑戦し、可能性を広げ、何事にも挑戦していくという意識改革の大切さを感じていただき、伝えていくことについてのご講演をいただく予定となっております。

さらに山形ブロック協議会の組織連携推進委員会とブロック進化創造委員会がそれぞれメンバー向けの分科会を行います。

大懇親会においては、鶴岡青年会議所が考える「自己進化への挑戦」をメンバー皆様にご披露いたします。

鶴岡青年会議所として、全メンバーの英知と勇気と情熱を持って、皆様をお待ちしております。そして、鶴岡のメンバーの皆さん、最後までがんばりましょう。

■第42回 会員大会シンボルマーク

- ◎会員大会シンボルマーク モチーフ 鶴・鶴岡の花(桜)
- ◎会員大会シンボルマーク コンセプト

庄内藩校「致道館」の趣意書に多く使用される「天性」(個性)とは、生まれ持った才能のことです。得手・不得手を見極めて生徒の性質(天性)にあった指導をすること、その天性を伸ばしていくことを述べています。またここで学んだ藩士たちの天性が開花したときに藩政の立て直しができると思えました。鶴は鶴岡を表すとともに、大空に美しく羽ばたいていく様が個人の可能性を伸ばしていくことを現しております。また、中に配置されている鶴岡の花(さくら)は、17LOMを表します。さくらが開花するように17LOMメンバーひとりひとりが、燃え滾る赤い色の中で躍動することを意味し、羽に見立てたそれぞれ4つのエリアが輪をもってその地域が繋がり、美しく強い山形を伝承していけることを表しております。



■社団法人日本青年会議所 東北地区 山形ブロック協議会 第42回山形ブロック会員大会鶴岡大会メインフォーラム

《講演テーマ》

ラグビーに学ぶ リーダーシップと つよい組織作り

「個」が強くならないと、強い「組織」などつくれるはずがない。強い「個」とは何か、リーダーに必要な要素とは何か。強い「個」とリーダーが存在する組織とはどんな機能を果たすのか。また、そのような組織をどう創造したらいいのか。ラグビー経験を通じ、学び考えた平尾氏がリーダーシップ論、組織論を痛快にお話します。



◎講師

神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャー兼総監督
元ラグビー日本代表監督

平尾 誠二 氏

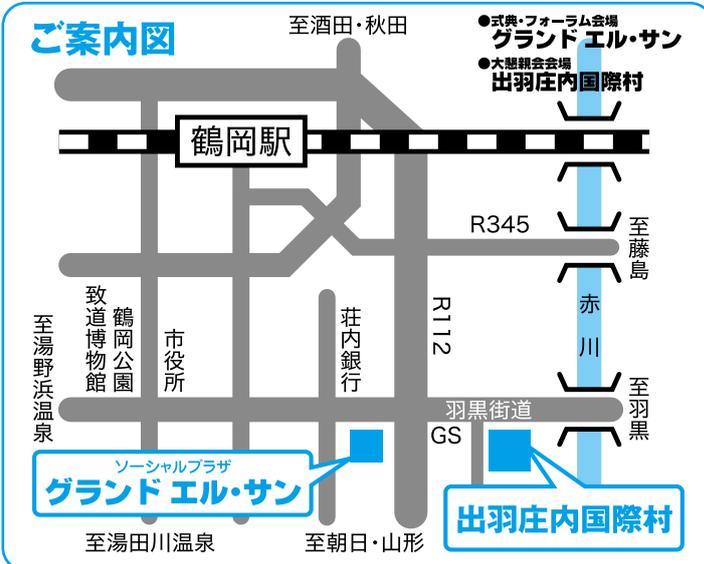
◎日時

2009. **7.12.sun**
開場 13:30 講演開始 14:00

◀メインフォーラムポスター

社山形ブロック協議会のホームページ上でも情報を掲載しております。
URL <http://www09.jaycee.or.jp/2009/tohoku/yamagata/>

山形ブロック協議会



2009年全国デザイン花火競技会

2009.8.9日

第十九回

赤川花火大会

花火大会の裏側を取材!!



今年で第十九回を迎えます赤川花火大会ですが、実はこの大会のための準備は昨年からはまっているのだそうです。大会まで残り2ヶ月を切っておりますが、この時期にもなりますと実行委員会事務局は昼夜、実行委員会メンバーの作業や打ち合わせが行われ、ほとんど休むことはありません。実行委員長も休日返上でがんばっております。今回は、そんな実行委員会の裏側を取材してまいりました。

まずはこの大会に対する実行委員会の考えや、想いなどを聞いてまいりました。実行委員会曰く、「赤川花火大会は、今後も出羽庄内の夏の風物詩としてだけでなく、地域になくなくてはならない大会、皆様の心に鮮やかな「感動の記憶」を残していける大会、そして何より安全・安心・快適で環境に配慮した大会を心がけ、大会の運営に当たりたいと思います。また、今後も我々の想像をはるかに超えた観客が来場する事が考えられる為、保安警備・会場整備等の対応・対策を強化して参りたいと思います。」とのことでした。毎年毎年当り前のように行われる赤川花火大会ですが、こうした実行委員会の想いの元に成り立っているのだと改めて感じさせられました。全国各地で相次いで花火大会が中止に追い込まれた今年でしたが、我々の地元風物詩としても長年続いていく行事を残していきたいものです。それでは次に、実行委員会の様子をお伝えします。

6/21 赤川河川清掃にて…。

この日は大会会場になる赤川の河川清掃を行いました。赤川花火大会を通じて地域の環境保全にも力を入れているとのことでした。あいにくの天気ではありましたが、朝8時からはじめた清掃活動で、多くのゴミを回収いたしました。国土交通省の話では、放棄されるゴミは去年にくらべて大幅に減ったそうです。毎年の活動を通じて、赤川をきれいに保つ運動の成果が確実に現れているのですね。最後はごみで絵文字を作りました。こんなにたくさんの人たちが参加いたしました。



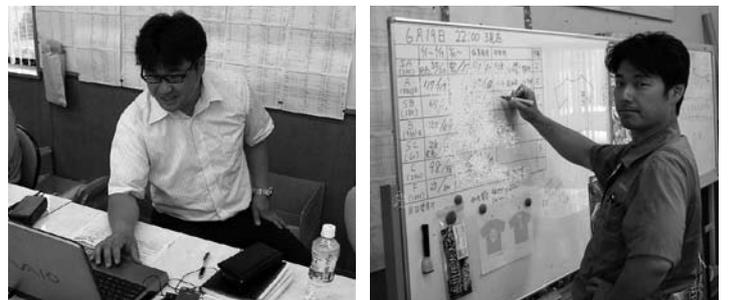
6/11 広告宣伝部会にて…。



この日は広告宣伝部会の活動を取材しました。大会のPRの要の大変重要な部会なのですが、なんと部会長は去年実行委員会に入ったばかりの新人さん!!です。でもやる気は他のメンバーに負けていませんね。先輩である副部会長が引く張られているみたいです。右側が部会長で左が副部会長です。今年の広告宣伝は全国に広くアピールしていました。JRとのタイアップ、また、企画中ではありますが、山形と縁の深いある映画とのタイアップもあるかも…。ファンをより一層全国に広げるためにがんばっております。

6/22 特別観覧席販売部会にて…。

この日は特別観覧席の販売開始の日でした。10時の販売開始時間とともに、電話はなりっぱなし!!毎年こうなんだそうです。事務員だけでは手が足りず、実行委員会総括も自ら電話の対応をしております。数時間たつと人気のSA席、SC席は完売し、あらためて赤川花火大会の人気の高さを感じました。好調の売上に笑みを隠せない大会実行委員会総括と特別観覧席販売部会長。



以上、これらはほんの一部に過ぎませんが、実行委員会メンバーが粉骨砕身、忙しく活動しているのを感じました。これらの活動は花火大会のスタッフブログにて公開中です。<http://akagawahanabi.blog34.fc2.com>こちらにもアクセスしてみてください。今年も赤川花火大会、期待してよさそうですね。皆さんも是非、大会会場に来てみてはいかがでしょうか?

(取材：広報委員会)

3月例会報告 March Report

みんなで防災を考えよう

心がけよう小さな防災!!
そのときあなたは何かできるか!



担当委員会

政策委員会 ● 委員長

齋藤 亮一

Ryouichi Saito

開催日 3/8(日)

心 心がけよう小さな防災! そのときあなたは何かできるのか! をテーマに出羽庄内国際村にて開催されました。「防災」は日常的でありながら、非日常的な行為です。常日頃からの「災害」に対する意識の啓蒙は大変難しいものでした。TADS ネット(災害支援ネットワークシステム)についてはメンバー及び一般市民の方に詳しく周知していただける内容とまではいきませんでした。青年会議所の活動の一部として災害ネットワークがあるということを示すことができました。防災を考える機会を作り、災害は身近にあるということを認識して頂いた事が一番の収穫であり、これからもこのような防災に対する例会は継続していただきたいと思っております。



講演会の模様

4月例会報告 April Report

コミュニケーションセミナー

自分の言葉でしっかりと伝えられる
明るい職場を創ろう!!



担当委員会

広報委員会 ● 委員長

木村 修平

Kimura Shuhei

開催日 4/18(土)

出 羽庄内国際村に於きまして、4月公開例会を「コミュニケーションセミナー～自分の言葉でしっかりと伝えられる明るい職場を創ろう」と題し、アナウンサーの小川香織氏を招きセミナーを開催いたしました。職場でのコミュニケーションの向上を図ることを目的としたセミナーで、小川氏からは、普段の経験談や心がけていることなどをお話いただき、ユーモアを交えた講義内容でした。参加された方からは「参加してよかった」、「早速自分の職場で今日聞いたことを実践したい」などといった感想をいただきました。事業の目的を果たすことができ、今後の事業に生かしていければと思います。当日の様子はホームページでご覧ください。



講師の小川氏

5月例会報告 May Report

わんぱく相撲鶴岡田川地区大会

「思いやり、感謝と一緒にフェアプレー」
～今日の涙を明日の笑顔へ～



担当委員会

青少年委員会 ● 委員長

叶野 孝志

Takashi Kanou

開催日 5/17(日)

小 真木原運動公園相撲場にて、5月例会のわんぱく相撲大会を行いました。あいにくの雨の中での開催となりましたが、けがや事故等もなく無事に終了したことで内心ほっとしています。これも鶴岡相撲連盟や関係各機関、もちろんLOMメンバーの皆様の協力があったからこそ大会成功と言えるのではないのでしょうか。また、昨年度よりも多くの小学生より参加していただきました。参加、ご協力いただいた皆様には本当に心から感謝申し上げます。また、6/13(土)には同会場にて各地大会の上位入賞者による、山形ブロック大会が行われ、鶴岡チームは入賞、全国大会へと駒を進めました。詳しい結果と写真はホームページで。



試合の様相